

城南区人啓連だより

令和5年度福岡市人権尊重週間 第52回人権を尊重する市民の集い（城南区会場）
令和5年12月5日（火）14:00～15:40 城南市民センター

- ・演題 「認知症の母が命懸けで教えてくれたこと」
- ・講師 映画監督・ノンフィクション作家 信友 直子（のぶとも なおこ）さん

今年度の市民の集いは、認知症の母を90代の父が看る老々介護の現実を娘の視点から捉え、大反響を呼んだ映画「ぼけますから、よろしくお願いします。」の監督である、信友直子さんを講師にお迎えし、認知症や老々介護、介護と仕事の両立など、誰もが関わる可能性がある問題や介護のコツについて、自らの体験をリアルに、そして笑いも交えながらお話しいただきました。



信友監督は、『認知症は、本人が一番苦しみにさいなまれ家族に迷惑かけると思っている。認知症の人への対応については、認知症の人の立場に立って「自分ごと」として捉えて、その気持ちを考えることが大切です。』と想像力を働かせ、人権の視点で考えることの重要性を語られました。

また、『母の認知症を嘆くのではなく、父のやさしさに気づけたことなど、そこに目を向けて前向きになれた。』と認知症になったからこそ、気づけて良かったことを「認知症が私にくれた贈り物」としてお話しされました。

その他、家族だけで介護するのではなく、介護サービス制度のデイサービスやヘルパーなどを利用して他の人と関わり、社会とつながりを持つことで「笑顔」がもどったことや近所に認知症をカミングアウトし情報を共有することで、介護をシェアすることもできるなど「認知症介護のコツ」をお話しされました。

最後に、これまでの体験から『介護は、親が命がけで教えてくれた最後の子育てです。』と親への感謝を語られ、講演会は感動を共有し大盛況で幕を閉じました。

参加者アンケートでは、「認知症の母を介護しているので、共感するところが多かった。」



「母の認知症をきっかけに家族愛が深まっていく様子がよく分かった。」「家族で支え合って、時には周りの力を借りて明るく乗り越えるのはすごく素敵だと思った。認知症の人の人権は、目からうろこでとてもいい気づきになった。」「笑顔で母と向き合える力をいただきました。」などのご感想をいただきました。